

地域研究シリーズ

2

朝鮮半島

谷浦孝雄 編

アジア経済研究所

地域研究シリーズ

②

朝鮮半島

谷浦孝雄 編

アジア経済研究所

「地域研究シリーズ」の刊行にあたって

アジア経済研究所は日本における発展途上諸国研究の主要な機関の一つであるが、1990年に特殊法人としての創立30周年を迎え、いくつかの記念行事を行っている。この「地域研究シリーズ」の刊行もその一つである。

「地域研究」とは何を意味するかについてここで立ち入ることはできないが、それがこれまでアジア経済研究所の主要な柱の一つであったことは間違いない。創立30周年を機に、われわれは、これまでの研究の成果を振り返ることによって、地域研究とは何か、それはどのようにしてなされるのか、これまでそれによって発展途上諸国の何を明らかにしてきたか、何に役立つのか、そして、今後の課題は何かを示そうとした。その結果がこのシリーズの刊行である。

シリーズは14巻から構成され、平成3年から4年にかけて刊行される予定である。また英文による別巻の刊行も予定されている。

その第1巻は『地域研究論』と題されている。これは、地域研究の目的と方法、地域研究と社会科学、地域研究の当面の課題をあつかった書き下ろしの書物で、シリーズ全体の序論をなしている。

第2巻から第14巻までの各巻は別掲のように地域別に構成され、いずれも第I部の総論と第II部の収録論文の二つの部分からなっている。第I部の総論は、それぞれの編者が、その巻の主題の範囲でアジア経済研究所におけるこれまでの地域研究の主要な流れと成果、日本の研究状況におけるその位置づけ、今後の課題などを論じた書き下ろしの論文である。

これに対し、第II部は、その巻の主題についてこれまでアジア経済研究所でなされた地域研究の成果の中から平均およそ11~12本の論文の全文あるいは抜粋部分を原著者のご承諾を得た上で収録し、同研究所におけるこれまで

の主要な成果の概観が得られるように配列したものである。したがって第I部と第II部とはそれぞれ独自の価値を有し、併せて読まれるべきものと考えている。

第II部への収録論文の選定はアジア経済研究所の公式の判断によるものではなく、あくまでもそれぞれの巻の編者の責任でなされたものである。多くの業績の中から何を取るかはそれぞれの編者にとって最も苦心の存するところであった。第I部の叙述と第II部への収録の仕方の中に地域研究についての各編者の考えがうかがえるといつてよいのである。

収録にあたっては、編集上の統一を図り、明らかな誤植を訂正したほかは、もとの論文になんらの変更も加えていない。また、抜粋にあたっては、それがもとの論文のどの部分に当るかが分かるように工夫した。収録をご承諾いただいた原著者のかたがたに厚くお礼申し上げたい。

このシリーズは、日本における発展途上諸国についての研究のかなり大きな部分を示したのものとして、各方面のかたがたに関心をもっていただけるものと信じている。

なお、英文の別巻は、第1巻および第2巻から第14巻までの第I部をもとにして、アジア経済研究所における地域研究の成果が英語の読者に理解されるように構成する予定である。

シリーズ作成の母体となったのは地域研究部におかれた「地域研究の課題と展望」研究会で、その委員は各巻の編者および清水元の諸氏である。しかし、この研究会では、それぞれの分担はあっても、シリーズを共同の所産とするために地域研究の考え方や論文収録の基準などについて繰り返し熱心な討議を行ったが、その際にはいつも研究所内から委員以外の多くの人々も参加した。また、このシリーズが30周年記念事業の一つであるということから、研究所内の各部門がさまざまな形の援助を惜しまれなかった。ここでは特に加藤孝之、服部民夫、岩佐佳英、橋本眞治、重城忠純の各氏のお名前を記したい。さらに、アジア経済出版会社長の田中生男氏はこのシリーズに深く関心を示され、実際にシリーズ刊行の仕事を担当された同出版会のかたがたか

らは編集上いくつもの有益な提案をいただいた。30年間の地域研究の検討と整理という面倒な仕事をともかくも軌道に乗せることができたのはこれらすべてのかたがたのおかげである。ここに心から感謝の意を表したい。

平成3年3月

「地域研究の課題と展望」研究会主査 山口博一

[凡 例]

1. 第I部の総論は編者による書き下しの論文である。その中の引用文献はおおむね著者名〔番号〕の形式で示し、文献名は総論末に「引用文献」として著者名の五十音順に掲載した。
2. 第II部で既発表の論文を収録するにあたっては、それぞれの論文の第1ページ上部に、書名(または雑誌名、巻号)、発行所名、発行年などを掲載し、省略部分をも含めた全体の目次を掲げた。
3. 原論文は加筆修正を行わずに、発表時のままの形で収録した。ただし、編集上の統一のために以下の点に留意した。
 - ① 原論文が縦組の場合は横組に変更し、同時に漢数字をアラビア数字に改めるなど、横組用の体裁にととのえた。
 - ② 章、節などの番号はI, II, IIIあるいは1, 2, 3などの形式に統一した。
 - ③ 原論文の省略については、「【前略】……」「……【中略】……」「……【後略】」などとし、部分的な省略は「【略】」として示した。
 - ④ 図表の表示は原論文に付された番号を原則としてそのまま掲載した。原文の省略に伴い図表の番号が飛ぶことがある。
 - ⑤ 原論文中の図表を収録しない場合には、【略】として示した。
 - ⑥ 注の番号は変更せずに示した。原文の省略に伴い注の番号も飛ぶことがある。注記の方式は文中右肩に統一した。節ごとに注が付されている場合には、まとめて論文末に掲げた。脚注の場合には通し番号を付して論文末に掲げた。省略によって注の内容が不明確になる場合には、引用文献名等を補った。
 - ⑦ 原論文の明らかな誤植は訂正した。また、部分的に編者による説明が必要な場合には、【……—編者】として文中で補った。

目 次

第 I 部 総 論

はじめに 5

第 1 章 日本の朝鮮半島研究 9

第 2 章 アジア経済研究所の韓国研究 11

I 韓国経済の工業化過程における諸問題 11

II 「韓国工業化モデル」 20

III 社会の変化と政治 23

第 3 章 アジア経済研究所の朝鮮民主主義人民共和国
に関する研究 27

I 革命路線 27

II 経済の実態 30

むすびに——「分断時代」朝鮮半島の地域研究—— 33

引用文献 35

第II部 朝鮮半島論

第1章 韓国経済の工業化過程における諸問題

- 1 韓国の工業化における資本動員と企業経営 谷浦孝雄 43
- 2 「政策金融」と「金融政策」 伊東和久 65
— 韓国の事例研究 —
- 3 韓国工作機械企業における技術移転と技能形成 水野順子 82
— X社の事例 —
- 4 韓国綿企業の輸出促進過程と企業経営 花房征夫 105
— 京城紡績を中心として —
- 5 現代韓国企業の所有と経営 服部民夫 124
— 「財閥」系企業を中心として —
- 6 韓国稲作生産力の新段階とその構造 桜井 浩 147
— 1970年代の新品種普及を中心に —

第2章 「韓国工業化モデル」

- 7 開発戦略としての「韓国モデル」 柳原 透 173

第3章 社会の変化と政治

- 8 政治と人間関係ネットワーク 服部民夫 196
- 9 韓国における経済開発と民主化 野副伸一 210

第4章 朝鮮革命と社会主義建設

- 10 1950年における朝鮮民主主義人民共和国による韓国地域での
土地改革 桜井 浩 224
- 11 北朝鮮における対ソ自主性の萌芽 1953—1955 小此木政夫 246
— 教条主義批判と「主体」概念 —
- 12 北朝鮮経済の実像 小牧輝夫 265
— 工業部門を中心に —

朝鮮半島

たにうらたか お

谷浦孝雄 (新潟大学経済学部教授, 前アジア経済研究所経済協力調査室長)

主要著作

『韓国の工業化と開発体制』 アジア経済研究所 1989年

『アジアの工業化と直接投資』 (編著) アジア経済研究所
1989年

『アジアの工業化と技術移転』 (編著) アジア経済研究所
1990年

『アジア工業化の軌跡』 (編著) アジア経済研究所 1991
年

朝鮮半島

地域研究シリーズ 2

1991年11月25日発行© 定価 (本体3100円+税)
2001年3月15日第2刷発行

編者 谷浦孝雄
発行所 日本貿易振興会 アジア経済研究所
〒261-8545 千葉県美浜区若葉3-2-2

研究支援部
TEL 043-299-9735 FAX 043-299-9736

印刷所 勝美印刷株式会社

ISBN4-258-22002-7 C3330

地域研究シリーズ

2

朝鮮半島